

授業科目区分	授業科目名	授業方法	単位	時間	関連の深い授業科目
専門	臨床柔道整復学1	講義	2	40	柔道整復理論(理論・実技) 解剖学・運動学
学科・学年	担当教員名	科目関連 実務経歴	実務経歴・分野・授業科目との関連等		
柔道整復学科 2年	小澤 健史	☐ 有 ☒ 無			
授 業 目 標 *詳細な目標は、授業の冒頭で提示					
脱臼の各論(体幹・上肢・下肢)を理解する。 各関節の構造、関与する筋肉等を理解し、脱臼のメカニズムを学ぶ。 各脱臼発生時の分類・症状・合併症・対処法(整復・固定)・治療法を学ぶ。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
【助言】 関節の構造、運動器(特に骨・筋)の解剖学の知識が必要となってきます。 基本的な骨の名称、部位名などは覚えるようにしましょう。					
【学習支援】 プリントを配布し配り、ポイントとなる個所を明確にします。					
教科書・参考書					
柔道整復学・理論編、実技編(全国柔道整復学校協会)					
受講時留意点、その他					
【 全科目受講時共通事項 】※詳細は学生便覧受講における遵守事項参照 ●病気その他止むを得ない事由以外での欠席はしないこと。 ●授業開始5分前には所定教室で待機し、指定された席で授業を受講すること。 ●授業中は私語、および授業内容に関係のない行為は自粛すること。 ●授業中の電子機器の使用は禁止する。但し、担当教員から許可を得た場合はこの限りではない。 ●当番は授業前後の準備、整理を行うこと。教室、実習室の整理整頓、採光、換気、節電に努めること。 ※注意 授業開始時間後の入室は職員室にて「授業開始後入室における聴講申請書」を記入し、記入した用紙を担当講師に手渡して下さい。 授業の聴講は許可しますが、出席簿は「欠席」扱いとなります。(公共交通機関遅延により遅延証明書がある場合のみ出席とみなします)。					
【 受講科目受講時留意点 】 ●事前に基礎知識については復習しておくこと(運動器の解剖学など) ●授業後には必ず、その日の授業を復習する事 ●配布されたプリントは整理しておくこと(紛失による再配布はしない)					
成績評価方法					
評価 方法	評価 割合 (%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期 試験	80	定期試験			
その他	20	小テスト・実技試験など			
(合計)	100				

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
1		ガイダンス、顎関節脱臼		/	小澤健史
2		顎関節脱臼		/	小澤健史
3		頸椎脱臼、胸椎脱臼、腰椎脱臼		/	小澤健史
4		鎖骨脱臼		/	小澤健史
5		鎖骨脱臼 肩関節脱臼		/	小澤健史
6		肩関節脱臼		/	小澤健史
7		定期試験(授業内試験) 肩関節脱臼		/	小澤健史
8		肘関節脱臼		/	小澤健史
9		肘関節脱臼 手関節の脱臼		/	小澤健史
10		手根中手関節の脱臼 中手指節関節・指節間関節の脱臼		/	小澤健史

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
11		股関節脱臼		/	小澤健史
12		股関節脱臼		/	小澤健史
13		膝関節脱臼		/	小澤健史
14		膝蓋骨脱臼		/	小澤健史
15		足部の脱臼		/	小澤健史
16		脱臼各論まとめ		/	小澤健史
17		脱臼各論まとめ		/	小澤健史
18		脱臼各論まとめ		/	小澤健史
19		前期まとめ1		/	小澤健史
20		前期まとめ2		/	小澤健史
前期定期試験(9/24～26)					